

■ 自然環境モニタリング会議の再点検に向けて

2016/05/30 土屋俊幸

赤谷プロジェクトが始まってから 12 年がたち、基本構想、管理経営計画も 2 巡目に入った。赤谷プロジェクトのエリアを核とした「みなかみユネスコエコパーク」も登録に向けて国内手続きが順調に進んでいる。

こうした中、赤谷プロジェクトの運営体制は、基本的にプロジェクト開始以来変更がなく現在に至っている。しかし、プロジェクトが進捗し、赤谷を取り巻く情勢も大きく変化してきており、体制の見直しも射程においた再点検が必要だと思われる。

以上の認識が共有されるならば、企画運営会議、連絡調整会議、自然環境モニタリング会議、各ワーキンググループ、サポーターというプロジェクトを構成する各組織及びそれらの連携体制について検討が行われるべきだが、ここではその要として自然環境モニタリング会議について再点検の方針を提示する。

1. 自然環境モニタリング会議の役割

『赤谷プロジェクトの歩み—第 1 期—』（第 3 章 亀山章稿）から抜粋すれば、下記のようなものである。

赤谷プロジェクトは、「三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画」[2004 年(平成 16 年)4 月]に述べられているように、「三国山地一帯の地域において、生態系の保全管理のための新時代の協働の枠組み構築、生物多様性保全に資する科学的な地域環境管理計画の実現、そして高い持続性をもつ地域社会づくりの 3 点を整合的に行うことに関する、日本におけるモデルを構築することを目的」としており、科学的な根拠にもとづく森林管理を目標としています。

そのため、プロジェクトの中に自然環境モニタリング会議を置くこととして、モニタリング会議が企画運営会議に対して科学的な指針や助言を与えていく科学委員会の役割をもつこととしています。

つまり、「企画運営会議に対して科学的な指針や助言を与えていく科学委員会の役割」が自然環境モニタリング会議（以下、「会議」と略）の組織としての目的と言える。以下では、この「会議」の目的に沿って議論を進めていく。なお、具体的な「会議」の構成、業務の内容としては、上記稿に下記記述がある。

各ワーキンググループ（以下、WG）の代表からなる委員と、赤谷プロジェクトの構成 3 団体によって構成されています。その主な役割は、WG 間の情報交換と調整、および各 WG の成果を「赤谷の森・基本構想」と「赤谷の森 管理経営計画書」に反映させることにあります。

2. 自然環境モニタリング会議の課題・問題点

(1) 「会議」のあり方

1) 企画運営会議との関係

- ① 「会議」の目的は、企画運営会議に指針・助言を与えることにあるが、毎回の会議において、何を、少なくとも「助言」しているかが明らかではない。
- ② 企画運営会議に指針・助言を与えるためには、「会議」の代表者が企画運営会議に参加し、直接発言する機会があるべきだが、実際にはそのような機会は存在しない。

2) ワーキンググループとの関係

- ① 委員は、WG の代表からなるとあるが、必ずしも各 WG から座長が参加しているわけでもなく、また WG 座長ではない委員（土屋）も存在する。
- ② WG での議論内容の「会議」への反映、「会議」での議論内容の WG への反映が万全ではない。
- ③ WG には独自の活動目的、活動内容があり、それは必ずしも「会議」の目的である「モニタリング」に限定されるわけではない。

3)「会議」の進行

- ① 会議の時間のほとんどを「報告」が占め、本来の委員間の議論の機会が限られている。
- ② その結果、企画運営会議、連絡調整会議での検討事項の、第三者による予備的検討の場、あるいは決定事項の追認の場となっている場合が多い。

(2) 順応的管理

1) モニタリングを評価する機能

- ① 「科学委員会」としての大きな機能は、順応的管理の一環としてモニタリングを回すことにある。つまり、モニタリングの結果について中長期的あるいは短期的に評価し、計画の変更が必要かを判断することが必要だが、実際にはそのような評価・判断は明示的には行われていない。
- ② 上記評価・判断の物差しとなる「指標・基準」が確定していない。
- ③ (1) 1)に関わって、「会議」によるモニタリングの評価・判断を、企画運営会議に受け渡す手順が明確化されていない。

2) 計画策定機能

- ① 計画策定は、企画運営会議の役割だが、「会議」の役割として、計画の内容について専門家の立場から助言することが重要であり、また実際、そのような機能を果たしてきたが、「会議」の役割、目的として、整理された形で位置付けられていない。
- ② 別の言葉で言えば、計画策定機能とモニタリングの評価・判断機能を同じ主体が担うべきかが検討されるべきである。

(3) ガバナンス

1) 役割分担

- ① 繰り返しになるが、企画運営会議と「会議」の役割分担、「会議」とWGの役割分担が明確でない。
- ② 翻って、「会議」が何を議論し、何を決める機関かが必ずしも明確でない。

2) 意志決定への参画の是非

- ① 現状では、「会議」の委員は、プロジェクトの意志決定には直接的にはまったく関わることができない。しかし、間接的には、様々な形で関わっている。
- ② 科学委員会として、つまりあくまでも第三者として、位置付けられるべきなのか、それとも科学者の集団として、意志決定にも直接関わるべきなのか、は改めて検討する必要がある。

(4) ユネスコエコパークとの関係

1) エコパーク科学委員会との関係

- ① みなかみユネスコエコパークが登録されると、エコパーク科学委員会が発足する。この科学委員会の構成、機能等については、まだ検討中だが、「会議」は組織として、あるいは實際上、この科学委員会とどのような関係を作っていくかについて検討を始める必要がある。

2) プロジェクトとユネスコエコパークとの関係

- ① そもそも、赤谷プロジェクトがユネスコエコパークの中で、どのように自らを位置付け、活動していくかについて、十分な議論がされていない。
- ② 別の言い方をすれば、エコパークが機能していくためには、赤谷プロジェクトが主導的に運営に関わる必要があると考えるが、そのような政治的な議論はどこでもされていないように感じられる。

3. 自然環境モニタリング会議の改善の方向

〈検討中〉